

氏名	宅久花子	年齢:21
出身校 記入例:●大学■学部 在学中or 卒業	TAC大学理工学部建築学科	
受講コース	建築職本科生	
登録校舎	新宿校	
最終合格試験種 記入例:特別区I類(建築／一般方式)3位	東京都I類B(建築／一般方式)1位、国家一般職(建築)、労働基準監督官B、横浜市(建築)	
合格体験記タイトル(20字以内)	あきらめなければ、つかみ取れる！	

※上記の項目を漏れなくご記入ください。

◆公務員を目指した理由・キッカケ

当初は民間就活を考えていましたが、就職の選択肢を狭めないためにも、公務員についても見ておこうと考え、TACの無料ガイダンスに参加しました。そこで公務員は幅広い仕事ができる点や、多くの人や地域に利益を還元できる点にとっても魅力を感じ、本格的に公務員を目指そうと思いました。最初は民間就活と公務員受験を並行させる予定でしたが、各自治体や試験種の説明会に参加する中で、民間企業よりも幅広くいろいろな仕事を経験できる公務員の世界により強く魅力を感じるようになり、最終的には公務員専願の道を選択しました。本音を言うと、ワークライフバランスが実現しやすいということも、公務員を目指した理由の1つです。

◆TACを選んだ理由

受験対策予備校の選択にあたり、いくつかの受験対策予備校を検討しました。最終的にTACを選択した理由は、建築職区分専用のコースがあり、Webフォローが標準装備されていたり、相談や質問受付に関するフォロー制度が充実していたり、ひとりでは対策が難しい論文添削や模擬面接は繰り返しOKと、安心して受験対策に集中できる環境があると感じたからです。また、無料ガイダンスと体験入学を通じ、公務員試験の仕組みや勉強方法についてはもちろん、各科目の講義がとてもわかりやすいと感じたことも、TACを選んだ理由の1つです。

◆所属校舎のおすすめポイント

私が通っていた新宿校は、担任講師や各区分の担当講師が講義を行っているため、質問や相談がしやすいところがおすすめです。受験勉強を進めている中で生じた疑問は、随時解決していただくことが大切です。新宿校ならば、講義の前後はもちろん、リアルタイムで相談や質問をすることができるので、効率的に受験対策を進めることができると思います。

◆これから受験する人へ

公務員試験は、決して難しい試験ではありませんが、限られた時間の中で如何に学習時間を確保するか、そして地道にコツコツ努力を積み重ねることができるか否かで、合否が分かります。時間と労力がかかりますが、その後に得られるものを考えると、十分に挑戦する価値があると思います。人は、「意識と環境」で変われます！絶対に合格するという気持ちでTACをフル活用して頑張ってください。

◆教養試験対策

教養試験の重要科目は、やはり数的処理です。講義を受けてすぐにV問題集を解けば解けるのですが、少し時間が経つと解法を忘れてしまい、必要以上に時間がかかってしまいました。そこで、私はV問題集から基本問題(AA～BAランクを毎日10問、時間をはかって本試験日まで毎日解き続けました。これを行ったことで、問題を見ればすぐに解法が頭に浮かぶようになり、本番では得点源にすることができました。一般知識分野は知っているか・知らないかだけでしたので、受験年の2月頃からWebフォローで繰り返し講義を聞き、V問題集を2回程度解いたことで、どの科目も正答率が高い問題だけは解けるようになりました。

◆専門試験対策

学習を始めた当初は、大学の講義で勉強しているし余裕だと思っていました。しかし、実際に勉強してみると、大学の学習範囲と公務員試験の出題範囲が異なっており、TACの講義で新たに学ぶことがたくさんありました。対策としては、まずは講義で各科目に必要な知識を学び、その後択一試験対策として問題集を3回ほど繰り返し解き、解ける問題を増やしていきました。東京都対策として専門記述対策にも取り組みました。専門記述対策は、狙われそうなテーマについて、択一試験対策の知識を精査するイメージを持ちながら、答案構成を組み上げてひたすら暗記していきました。

◆人物試験対策

私は面接自体に苦手意識があり、非常に不安感が強かったことから、入念に対策をしました。具体的には、東京都の筆記試験が終わったところに面接対策講義を受講し、まずは自己分析を深めました。ここで自分の想定問答を練る際の元となる過去の経験を洗い出したことで、その後の面接対策が楽になりました。その後は実戦練習として模擬面接に臨み、模擬面接官に指摘されたことに一つひとつ向き合い、想定問答を整理していったことで、本番では自信を持って質問に答えることができました。TACは模擬面接が繰り返し受けられますので、面接に苦手意識がある方にはTACがおすすめです。